国際文化
平成二十三年
五月十五日号

震災に思ふ（五）

海外からの激励と賞讃（続）

諸外国から送られてきた主なメッセージの続きを掲載して、国際社会の善意に感謝したいと思ひます。

中国・胡錦濤国家主席（三月十八日、日本大使との会談）
「日本が必ず困難を克服し、再建できると信じてゐる」

中国・温家宝首相（三月十四日、記者会見）
「中国も自身の多発国だ、自分たちのやうに考へてゐる」

ロシア・メドベージェフ大統領（三月十一日、菅首相宛見舞ひ電）
「報道を見て胸が痛んだ。心からのお悔みを伝へてほしい」

ロシア・プーチン首相（三月十九日、サハリンで）
「われわれのパートナーが必要とする援助を行なふ用意がある」

台湾・馬英九総統（三月十八日、義捐金募集会場で）
「日本人の我慢強い冷静沈着な行動を見て感動した」

台湾・李登輝元総統（（三月十一日、ネットを通じて）
「刃物で切り裂かれるやうな心の痛みを感じてゐる」

フィリピン・アキノ大統領（三月十七日、日本大使公邸）
「犠牲となつた人々に心から哀悼の意を表する」

インドネシア・マルティ外相（三月十六日）
「わが国も何度か自然災害に見舞はれてをり、日本が現在経験してゐる痛みと困難も一層共感できる」

シンガポール・リー・シェンロン首相（三月十九日、日本大使館で）
「時間はかかつても不屈の精神と立ち上がる力、団結力、自制心をもつて復興を成し遂げると確信する」

タイ・プミポン国王夫妻（三月十二日、天皇・皇后両陛下へのメッセージ）
「甚大な被害を深く悲しんでゐる両陛下とすべての日本国民に心からの弔慰を表す」

ベトナム・グエン・ミン・チェット国家主席（天皇陛下へのお見舞ひの言葉）
「日本国民が震災を早期に乗り越えると信じてゐる」

インド・シン首相（三月十四日、議会演説）
「インドは日本の最大のＯＤＡ（政府開発援助）の受給国であることを忘れてはならない」

アフガニスタン・カンダハル市のハミディ市長（三月十四日、産経新聞に）
「日本はこれまで多額の支援をしてくれた。義捐金は大した額ではないが、せめてもの助けになれば」

バングラデシュ・ハシナ首相（三月十三日、救助隊派遣表明で）
「独立以来、両国の絆は固い。日本のために全力を尽くす」

北朝鮮・金永南・最高人民会議委員長（朝鮮総連への見舞電）
「朝鮮総連中央常任委と被害地域の総連幹部と同胞、遺族に深い哀悼の意を送る」

オーストラリア・ギラード首相（声明）
「難局に立つ日本を支へる」

ニュージーランド・キー首相（三月十二日、救助隊派遣を前に）
「友人である日本国民のために、今度は私たちが必要なあらゆる支援を提供する」

パレスティナ自治政府・ワリード・シアム駐日代表（三月十一日、日本政府に）
「現在ガザが攻撃されてゐるが、その最中でも日本人への支援を忘れずにゐる」

メキシコ・カルデロン大統領（ツイッターで）
「大震災に苦しむ日本の人々に深い哀悼の気持ちを送る」

ＥＵ（欧州連合）・ファンロンパイ大統領（三月二十二日、菅首相との電話会談）
「日本の国民が力を合わせ、互いに支へ合つてゐることに称賛の意を表明したい」

英国・エリザベス女王（（三月十一日、天皇陛下へのメッセジ）
「多くの方が亡くなられたことを悲しんでゐます」

英国・キャメロン首相（三月二十二日、日本大使館で）
「原発で働く人たちや緊急援助隊は、日本が復興できるといふ精神力を見せてゐる」

フランス・サルコジ大統領（三月十八日、菅首相との電話会談）

ドイツ・メルケル首相（三月十七日、日本大使館で）
「日本国民が危機を乗り越えることを祈り、ドイツの支援を確約する」

同（三月十七日、議会演説で）
「日本は一人でない」

ローマ法王庁（三月十一日、日本カトリック司教協議会に送つた見舞電）
「法王ベネディクト一六世が、悲劇に深く心を痛めてゐる」

五月十一日で被災後二ケ月が経ちました。十六年前の阪神・淡路大震災では、私は避難所暮らしをちやうど二ケ月したあと、仮設住宅で三年三ケ月を過ごしました。しかし、今回はまだ仮設に入れない人々が沢山をられます。

多くの家族・親戚・友人・知人を亡くした痛恨の災害でしたが、悲しみを乗り越えて復旧・復興を目指す東北の人々に、辛いだらうが決して負けるな、と声援を送らせて頂きます。

上記の詩は、一杯の水を泣きながら頂いた経験から、貴重な体験をされたものだと、感慨深い思ひです。失はれて初めて有難さが分かるものでせうが、今後は当たり前の平凡に見える生活の中にある無数の喜びを味はうやうに努めねばならないと自戒した次第です。

東北出身の文学者、石川啄木と宮沢賢治のことを日々思ふこの頃です。

（中島英迪）

朝の詩（うた）

平成23年3月11日　午後2時46分
福島県矢吹町
阿部　正栄　62歳

この日まで一滴の水が体の奥までしみわたる
喜びを知らなかった。
この時まで一個のあめ玉を分けてなめる幸せを
知らなかった。
つぶれたわが家　地割れした道路から
真っ青な空を見上げる北帰行の白鳥たちが
はげましの鳴き声あげて飛んで行く。

（「産経新聞」平成23年5月2日付）

国際文化
平成二十三年
六月一日号

震災に思ふ（六）

鎮魂のうた

東北大震災の写真・映像を見る度に、またその惨状を描いた文章を読む度に、その地獄絵図の酷さに言葉を失ふ。わずか一時間前には、何事もない普通の日常生活を営んでゐた人々を突然大地震が襲ひ、やがて津波来たるの警告に、必死になつて逃げ惑ふ人たちを大波が迫り来て、無慈悲にも呑み込んでしまつた。恐怖、パニック、そして絶望。

無念の最期を遂げた人々。洗ひ去られた海岸の町や村、悪臭の中に、無人の廃虚を目にすると、ナゼ？　ナゼ！家族や親戚を失ひ、友人や知人と死に別れ、思ひ出になる品々、すべてのものを奪はれて・・・。

それでも生きて行かねばならぬ悲しみ。つらい、むごい、くやしい、腹立たしい。自分たちはどんな悪いことをしたといふのか！　何故こんなひどい目に遭はねばならぬのか。不条理！　神よ、いづこ？　仏よ、どこに？　天はなぜ、無数の無辜の善男善女を見捨てたのか？

辛うじて生き残つた人々の中には重傷で苦しむ人、大切な人や物を喪失した空しさで心に傷を負つた人、仕事を失ひ気力の萎えた人、なぜ自分が助かつたのに多くの命が失はれなければならなかつたのか、と罪の意識に悩む者・・。

人生つて、何と哀しいものか！

壊滅した海辺の町から目を逸らすことなく、人間の世のはかなさと、人生の無常を知らなければ、人々を救ひ、日本を再生することは出来まい。人間の苦悩、この世の悲惨を直視する勇気を欠く者は、意識を明るい面に転じて、世は事もなし、などと卑怯で呑気な逃避に走る。共に悲しみ、共に苦しむといふ慈悲の情のない利己主義者であつてはなるまい。

東北の惨事といへば、私は真つ先に貧困と孤独に苛まれながら、悲しみを歌つた石川啄木を想ふ。

「**東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたはむる**」

「**やはらかに柳あをめる北上の岸辺目に見ゆ泣けとごとくに**」

そして、

「**頬につたふなみだのごはず一握の砂を示しし人を忘れず**」

「**大海にむかひて一人七八日泣きなむとすと家を出でにき**」

さらに名勝松島の一変したたたずまひに、変貌した名句を口ずさむでしまふ。**松島や　ああ松島や　松島や。**

さういへば「よろこびも悲しみも幾年月」の舞台は、福島県の塩谷岬であつた。

「**俺ら岬の　灯台守は　妻と二人で　灯をかざす　灯をかざす**」「**朝に夕に　入船出船　妻よがんばれ　涙をぬぐえ　もえてきらめく　夏の海　夏の海**」

同じ塩谷を歌つた演歌「みだれ髪」は、

「**僧や　恋しや　塩谷の岬　投げて届かぬ　想いの糸が　胸にからんで　涙をしぼる**」「**辛らや　重たや　わが恋ながら　沖の瀬をゆく　底曳き網の　舟にのせたい　この片情け**」

「**暗や　涯てなや　塩谷の岬　見えぬ心を　照らしておくれ　ひとりぼっちに　しないでおくれ**」

「港町ブルース」も男女間の恨みを歌ひ、

「**港　宮古　釜石　気仙沼**」を哀しんだものだが、大震災の猛威の前では、むしろ仕合はせに聞こえてしまふ。

「北国の春」では、「**白樺　青い　丘　北国の　北国の春**」・・「**あな**」と歌つたが。帰れない人々が**譬**で北上川はどうだつたのか？　「北上夜曲」の「**想い出すのは　想い出すのは、北上河原の　想い出は帰らず**」「七夕の飾りは　また夏が来て　あの日と同じ・・・」と歌つたが・・・。

「雨ニモマケズ」の宮沢賢治は、

「**いかりのにがさまた青さ**
四月の気層にひかりの底を
唾し　はぎしりゆききする
おれはひとりの修羅なのだ」

と書き、「春光呪咀」では

「**いつたいそいつはなんのざまだ**
どういふことかわかつてゐるか」

で始め、

「**ただそれつきりのことだ**
（おおこのにがさ青さつめたさ）」

で結んだ。そして賢治は、「無声慟哭」で、かう書き出した。

「**こんなにみんなにみまもられながら**
おまへはまだここでくるしまなければならないか
ああ巨きな信のちからからことさらにはなれ
また純粋やちひさな特性のかずをうしなひ
わたくしが青ぐらい修羅をあるいてゐるとき
おまへはじぶんにさだめられたみちを
ひとりさびしく往かうとするか
信仰を一つにするたつたひとりのみちづれのわたくしが
あかるくつめたい精進のみちからかなしくつかれてゐて
毒草や蛍光菌のくらい野原をただよふとき
おまへはひとりどこへ行かうとするのだ」

そして「永訣の朝」、

「**けふのうちに**
とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ
（あめゆじゆとてちてけんじや）
うすあかくいつそう陰惨な雲から
みぞれはびちよびちよふつてくる
（あめゆじゆとてちてけんじや）
青い蓴菜（じゅんさい）のもやうのついた
これらふたつのかけた陶椀（たうわん）に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして
わたくしはまがつたてつぽうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛び出した
（あめゆじゆとてちてけんじや）
蒼鉛（さうえん）いろのくらい雲から
みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子
死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから
（あめゆじゆとてちてけんじや）
はげしいはげしい熱やあへぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
銀河や太陽　気圏などとよばれたせかいの
そらからおちたさいごの雪のひとわんを・・・」

「**おまへがたべるこのふたわんのゆきに**
わたくしはいまこころからいのる
どうかこれが天上のアイスクリームになつて
おまへとみんなとに聖い資糧をもたらすやうに
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ」

二万数千の天界の御霊よ！　大正十一年、賢治が妹に捧げた詩を受け給へ。どうか無念の想ひを、地上のはらからへの励ましと祝福の想ひへと転じ給へ！（中島英迪）

センバツ高校野球大会開会式（三月二十三日）

創志学園・野山慎介主将の選手宣誓

私たちは十六年前、阪神淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で多くの尊い命が奪はれ、私たちの心は悲しみでいつぱいです。被災地ではすべての方々が一丸となり、仲間とともに頑張つてをられます。人は仲間に支へられることで大きな困難を乗り越えることができると信じてゐます。私たちに今できることは、つぱい元気を出して戦ふことです。がんばらう、日本。生かされてゐる命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓ひます。